

静観台グループ例会

於：サイエンスフィールド 2004.02.18

参加者 高松（仁美小） 倉橋（西大寺南小） 福井（伊島小）

【100円燃料電池】 倉橋

燃料電池のNPO法人であるPEM-DREAMが作成した100円燃料電池のマニュアルと製作キットです。燃料電池と聞くと、科学の最先端技術で難しそうなものというイメージがありますが、このキットはフィルムケースと三菱鉛筆uniの太い芯2本、2ボルトの発光ダイオード、それに導線20cmで構成されています。あとは6P型電池と食塩水があれば電気分解と発電の実験ができるのだそうです。あまりに簡単なのでにわかには信じがたいのですが面白そうです。この日は電池がなかったので実際にはやっていませんが追試してみたいです。



【人間電卓2】 高松

短冊を組み合わせて足し算の問題を作り、即座に答える人間電卓ですが、高松先生が4段のバージョンを作ってくれました。こちらの方が子供が検算をする時に簡単なようです。



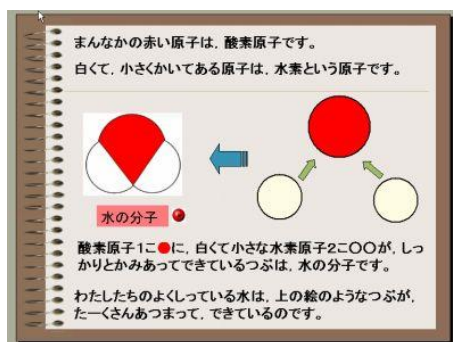
【紙巻きゴマ】 倉橋

以前紹介してもらった紙巻きゴマですが、今年も倉橋学級でブレイク中だそうです。爪楊枝に幅1cmの紙を巻き付け木工ボンドで固めるだけですが、3年生の子供には難しく、始めはずいぶん時間がかかっていたそうです。しかし楽しいことには子供は熱中し上達するもので、いまでは短時間に美しいコマを作れるようになっています。台は100円ショップものです。



【デジタル教科書】 倉橋

近い将来、教科書(指導書)がデジタル化されるかも知れないそうです。国語のデモ版を見てみると、クリックひとつで任意の場所を正しく朗読してくれたり、挿し絵がスライドショーやアニメーションで動いたり、漢字の筆順を順に表示したり…とこれまでの教科書に比べてビジュアルで楽しくなっています。このデジタル教科書と以前紹介したスマートボード(電子黒板)を組み合わせればチョークや黒板消しのない教室ができます。



【もしも原子が見えたなら】 福井

石浦先生が倒れられてからピンチヒッターとしてやっているSF(サイエンスフィールド)科学教室の7回目を13日(土)に行いました。今回は科学の基本的な原理原則のひとつである「原子論的な見方」についての学習をしました。①すべての物は原子という小さなつぶでできている。②原子はたいへん小さく1億倍しても手のひらに収まるくらいである。③原子には窒素、酸素、アルゴン、水素、ネオン、ヘリウム…などがあり、酸素や窒素は原子が2個くっつき分子になって飛んでいるが、アルゴンやネオン、ヘリウムは原子のままである。④水は水素原子2つと酸素原子1つがくっついている…といったことを分子模型やプレゼンテーション等を使って学習しました。小学生に原子論を教えることには異論があるでしょうが、子供達は新しい世界観に興味していました。